



9.1 宮城県総合防災訓練

—志津川中生が避難所運営—

9月1日に南三陸町を会場に宮城県総合防災訓練が行われました。このうち、志津川中学校では、地域での火災、建物倒壊及びライフライン途絶に伴い避難所を開設・運営をする必要があるとの想定で全校生徒と教職員が参加した訓練が行われました。

この訓練の特徴は、シナリオを知っているのは教頭先生のみで、他の教職員や生徒には知らされておらず、その場で状況を把握し、行動する必要があることです。町の担当者から、役割を依頼されると、率先して行動する生徒の姿が多くありました。

受付担当になった生徒は、避難してきた住民の方に受付簿の記入の仕方を丁寧に説明したり、物資を配布する生徒は、座っている避難者の方の目線の高さになり、声を掛けながら物資を手渡したりしていました。

2、3年生は、入学してから避難所開設訓練を経験しているので、手際よく活動していました。1年生は、戸惑いながらも周囲の動きを見ながら、できることを探して動いていました。訓練に参加した地域の方々は、とても頼もしく感じたことと思います。今回の訓練は、自助・公助の視点からも実効性のある訓練でした。

志津川中学校では、11月に学校独自の避難所開設・運営訓練を実施するとのことです。



【避難者の受付】



【物資輸送を妨げる土砂撤去】



【炊き出し準備】



【物資搬送】



【パーテーション・ベットの設営】



学校防災アドバイザー訪問記録

～引き渡し、下校の判断は慎重に！ 学校待機の判断も！～

9月現在、学校防災アドバイザーにより15校の避難訓練を視察し指導をしていただいています。どの学校も、児童生徒の命を守るため、地震や火災の他、台風や集中豪雨による河川氾濫、土砂災害等を想定した垂直避難や職員研修等、地域の災害特性を踏まえ工夫を凝らした避難訓練を行っております。

8月27日には、山形大学の村山学校防災アドバイザーに聴覚支援学校小牛田校を訪問していただきました。

村山学校防災アドバイザーが助言されたことの一部を紹介いたします。

- 引き渡しを含む下校の判断は、慎重にすること。
- 安全に学校待機することが重要である。
- 引き渡しの場合、無理に迎えに来させないこと。
- 以上の引き渡しを含む下校、学校待機等の方針について、保護者からの意見や知恵を出していただき、保護者と合意しておくことが重要である。

学校待機、引き渡しを含む下校のマニュアルの見直し、待機訓練も積極的に実施してほしいとのことです。

改めて、学校待機、引き渡しの約束事を見直す機会にしてください。



【聴覚支援学校小牛田校による大雨・洪水警報による垂直避難訓練の様子】



未来へつなぐ学校と地域の 安全フォーラム開催！

今年度で9回目となるフォーラムを11月20日(水)に開催します。基調講演のほか、学校安全3領域の実践発表を行います。

■日 時 令和6年11月20日(水) 午前10時から午後4時まで

■場 所 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール

■基調講演 京都大学防災研究所 教授 矢守 克也 氏

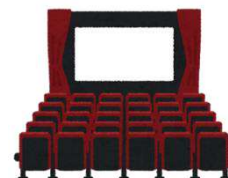
『Thirteen と Thirty—30年後の子どもたちと作る防災教育—』

■実践発表 災害安全：富谷市立富ヶ丘小学校 大崎市立古川南中学校

松島高等学校 金成支援学校

交通安全：仙台第三高等学校

生活安全：石巻市立万石浦小学校



開催要項は
こちらから

